

四半期報告書

(第133期第1四半期)

自 平成22年4月1日
至 平成22年6月30日

明治乳業株式会社

(E00332)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1	主要な経営指標等の推移	1
2	事業の内容	2
3	関係会社の状況	2
4	従業員の状況	2

第2 事業の状況

1	生産、受注及び販売の状況	3
2	事業等のリスク	4
3	経営上の重要な契約等	4
4	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	5

第3	設備の状況	8
----	-------------	---

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1)	株式の総数等	9
(2)	新株予約権等の状況	9
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	9
(4)	ライツプランの内容	9
(5)	発行済株式総数、資本金等の推移	9
(6)	大株主の状況	9
(7)	議決権の状況	10

2	株価の推移	10
---	-------------	----

3	役員の状況	10
---	-------------	----

第5	経理の状況	11
----	-------------	----

1 四半期連結財務諸表

(1)	四半期連結貸借対照表	12
(2)	四半期連結損益計算書	14
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15

2	その他	21
---	-----------	----

第二部	提出会社の保証会社等の情報	22
-----	---------------------	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第2項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年8月13日
【四半期会計期間】	第133期第1四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）
【会社名】	明治乳業株式会社
【英訳名】	Meiji Dairies Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長 浅野 茂太郎
【本店の所在の場所】	東京都江東区新砂一丁目2番10号
【電話番号】	03(3516)3683(直通)
【事務連絡者氏名】	管理部長 塩崎 浩一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目4番16号
【電話番号】	03(3516)3683(直通)
【事務連絡者氏名】	管理部長 塩崎 浩一郎
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第132期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第133期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第132期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高 (百万円)	182,959	181,322	704,499
経常利益 (百万円)	6,481	6,710	17,281
四半期(当期)純利益 (百万円)	3,078	2,931	8,382
純資産額 (百万円)	150,293	153,393	149,263
総資産額 (百万円)	404,415	393,523	390,807
1株当たり純資産額 (円)	450.33	459.81	447.20
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	9.37	8.92	25.52
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	36.6	38.4	37.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,585	2,051	34,220
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,833	△1,573	△13,152
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△698	△3,099	△21,172
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	4,736	1,977	4,577
従業員数 (人)	7,378	7,663	7,196

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において連結子会社であった大蔵製薬株式会社は当社が所有する株式をすべて売却したため、子会社ではなくなりました。

また、当第1四半期連結会計期間において連結子会社である明治油脂株式会社は連結子会社であった大阪保証牛乳株式会社を吸収合併いたしました。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数（人）	7,663 [3,884]
---------	---------------

(注) 従業員数は就業人員数（当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む）であり、臨時従業員数は [] 内に当第1四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数（人）	4,727 [1,701]
---------	---------------

(注) 従業員数は就業人員数（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む）であり、臨時従業員数は [] 内に当第1四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)
食品 (百万円)	117,548	—
その他 (百万円)	10,720	—
合計 (百万円)	128,268	—

- (注) 1 食品は、市乳、乳製品、冷凍食品、マーガリン類等であります。
2 その他は、飼料等であります。
3 上記金額は、消費税等抜の販売価額により表示しております。
4 セグメント間の取引は含まれておりません。

なお、提出会社の主要製品別生産実績は、下記のとおりであります。

区分	単位	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)
市乳	kl	279,793	99.2
粉乳	ton	7,942	106.2
練乳	ton	556	103.7
バター	ton	3,273	92.5
チーズ	ton	6,208	114.8
アイスクリーム	kl	19,641	88.9
飲料	kl	31,595	80.8
その他	百万円	5,407	98.2

- (注) その他は、冷凍食品等であり、消費税等抜の販売価額により表示しております。

(2) 受注状況

当第1四半期連結会計期間における受注状況については、受注高が極めて少額であるため、記載を省略しております。

なお、提出会社については、現在受注生産を行っておりません。

(3) 販売実績

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)
食品 (百万円)	154,273	—
その他 (百万円)	27,049	—
合計 (百万円)	181,322	—

- (注) 1 食品は、市乳、乳製品、冷凍食品、マーガリン類等であります。
2 その他は、飼料等であります。
3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
4 総販売実績に対する売上の割合が10%以上の相手先はありません。
5 セグメント間の取引は含まれておりません。

なお、提出会社の主要製品別販売実績は、下記のとおりであります。

区分	単位	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)		金額前年同四半期比 (%)
		数量	金額 (百万円)	
市乳	kl	285,801	74,925	98.8
粉乳	ton	7,198	9,194	105.2
練乳	ton	606	234	105.2
バター	ton	3,515	3,796	107.4
チーズ	ton	6,386	7,296	104.6
アイスクリーム	kl	32,339	11,770	102.2
飲料	kl	35,939	5,488	84.4
その他	—	—	14,702	103.0
合計	—	—	127,407	99.9

- (注) 1 その他は、冷凍食品、マーガリン類等であります。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3 総販売実績に対する売上の割合が10%以上の相手先はありません。

2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

1. 業績の状況

区分	第132期 第1四半期 連結会計期間 (百万円)	第133期 第1四半期 連結会計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
売上高	182,959	181,322	△1,637	99.1
営業利益	6,349	6,594	244	103.9
経常利益	6,481	6,710	229	103.5
四半期純利益	3,078	2,931	△146	95.2

売上高は、新たに明治ライスデリカ株式会社及び株式会社フレッシュ・ロジスティックを連結範囲に含めたことや明治乳業において粉乳やアイスクリーム等が好調だったものの、大蔵製薬株式会社を連結の範囲から除外したことに加え、明治乳業において牛乳や飲料等が苦戦したことから、前年同四半期比0.9%減の181,322百万円となりました。

営業利益・経常利益・四半期純利益については、原材料コスト減効果等により、営業利益が前年同四半期比3.9%増の6,594百万円、経常利益が前年同四半期比3.5%増の6,710百万円となりました。四半期純利益は大蔵製薬株式会社株式の売却による特別損失が発生したこと等により前年同四半期比4.8%減の2,931百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

区分	食品			その他			計		
	第132期 第1四半期 連結会 計期間	第133期 第1四半期 連結会 計期間	増減	第132期 第1四半期 連結会 計期間	第133期 第1四半期 連結会 計期間	増減	第132期 第1四半期 連結会 計期間	第133期 第1四半期 連結会 計期間	増減
売上高 (百万円)	156,514	154,704	△1,809	37,219	37,073	△145	193,734	191,778	△1,955
営業利益 (百万円)	5,414	5,522	107	908	1,010	102	6,322	6,532	209

(注) 売上高、営業利益は、セグメント間の取引を消去する前の金額によっております。

(1) 食品

当事業には、牛乳、乳製品、アイスクリーム他食品の製造・販売が含まれております。

売上高は、明治乳業において粉乳やアイスクリーム等が好調だったものの、牛乳や飲料等が苦戦したことから、前年同四半期比1.2%減の154,704百万円となりました。営業利益は原材料コスト減効果等により前年同四半期比2.0%増の5,522百万円となりました。

(2) その他

当事業には、物流事業、飼料事業、その他事業が含まれております。

売上高は、飼料事業の売上が前年同四半期実績を下回ったこと等により前年同四半期比0.4%減の37,073百万円となりました。営業利益は飼料事業において原材料コストの減少があったこと等により前年同四半期比11.3%増の1,010百万円となりました。

2. キャッシュ・フローの状況

区分	第132期 第1四半期 連結会計期間 (百万円)	第133期 第1四半期 連結会計期間 (百万円)	増減額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,585	2,051	△1,534
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,833	△1,573	1,259
財務活動によるキャッシュ・フロー	△698	△3,099	△2,401
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	54	△2,621	△2,675
現金及び現金同等物の期首残高	4,682	4,577	△104
新規連結に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	21	21
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,736	1,977	△2,759

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額の増加等により、前年同四半期より1,534百万円減の2,051百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入の発生等により、前年同四半期より1,259百万円増の1,573百万円の支出となりました。

これにより、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額）は478百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少等により、前年同四半期より2,401百万円減の3,099百万円の支出となりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は前年同四半期より2,759百万円減少し、1,977百万円となりました。

3. 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

4. 株式会社の支配に関する基本方針について

該当事項はありません。

5. 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間における研究開発活動の金額は、1,787百万円であります。なお、当第1四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

6. 当連結会計年度の見通し

当社グループを取り巻く経営環境は、少子高齢化の進行に加え、景気動向についても、欧州での金融危機を契機とした二番底の懸念が残るなど、先行きへの不透明感が増しており、個人消費についても、雇用不安、所得の伸び悩みなどにより、将来不安が高まっていることから、大幅な改善を期待するのは難しい状況にあります。

乳業界におきましては、輸入原材料調達コストは一時期の高騰からは落ち着きを取り戻しているものの、今後の見通しは不透明であり、経営環境は激しく変化していくものと考えております。一方では、昨年の乳価アップに伴う値上げの影響もあり、国内の飲用牛乳の消費は低迷しており、牛乳や乳製品の消費拡大に向け更なる取り組み強化が必要になってくるものと認識しております。

こうした厳しい環境におきまして、当社グループでは「独自の技術力・商品力を活かして世界の食品トップ企業と互角に競争できる食品企業グループとなる。」という長期ビジョンの達成に向け、事業基盤の更なる強化を図っていく所存であります。

具体的には、「明治ブルガリアヨーグルトLB81」「明治プロビオヨーグルトLG21」をはじめとするヨーグルト・プロバイオ事業等の競争優位事業の徹底強化を推進していくとともに、今後も消費拡大が期待されるチーズ事業や、高齢化の進展により需要が増加している流動食事業などの成長事業については、製造・販売一体となって積極的に拡販を推し進め、事業の拡大、発展を図ってまいります。

あわせて、経営環境の激変に耐え得る事業構造を確立すべく、冗費の徹底削減と費用の効率的支出を実践するとともに、販社を含めたグループ内販売体制の最適化、グループ内の間接業務の見直しなど、あらゆる面において、グループ一体となったコスト構造改革を推進してまいります。

これらの施策に加えて、安全で確かな品質とサービスをお客様に提供する品質保証システム「明治クオリアス」の実践、企業経営の礎となるコンプライアンスへの取組み等を鋭意推進することにより、グループ一丸となり企業価値の更なる向上を図ってまいります。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

(注) 定款での定めは、次のとおりであります。
当社の発行可能株式総数は、800,000,000株とする。

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	328,500,000	328,500,000	非上場	(注) 1, 2
計	328,500,000	328,500,000	—	—

(注) 1 単元株制度を採用しておりません。

2 株式の譲渡制限に関する規定は次のとおりです。

当社の発行する全部の株式について、会社法第107条第1項第1号に定める内容(いわゆる譲渡制限)を定めており、当該株式を譲渡により取得するには取締役会の承認を要する旨を定款に定めております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年4月1日～ 平成22年6月30日	—	328,500,000	—	33,646	—	31,977

(6)【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、大株主の異動はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 328,500,000	328,500,000	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	328,500,000	—	—
総株主の議決権	—	328,500,000	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【株価の推移】

当社株式は、非上場であるため、該当事項はありません。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表については監査法人不二会計事務所による四半期レビューを受け、当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第132期連結会計年度

監査法人不二会計事務所

第133期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間

新日本有限責任監査法人

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,977	4,577
受取手形及び売掛金	85,932	80,813
商品及び製品	37,331	37,563
仕掛品	142	174
原材料及び貯蔵品	11,429	12,264
その他	15,899	12,421
貸倒引当金	△215	△196
流動資産合計	152,497	147,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,512	67,513
機械装置及び運搬具（純額）	62,093	64,348
土地	43,366	43,556
リース資産（純額）	1,377	1,335
建設仮勘定	2,773	1,192
その他（純額）	8,076	8,234
有形固定資産合計	※1 184,200	※1 186,182
無形固定資産	6,698	7,370
投資その他の資産		
投資有価証券	22,938	24,325
その他	27,431	25,544
貸倒引当金	△242	△233
投資その他の資産合計	50,127	49,636
固定資産合計	241,025	243,189
資産合計	393,523	390,807

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	68,459	64,526
短期借入金	58,345	44,580
コマーシャル・ペーパー	—	16,000
未払法人税等	3,468	4,541
賞与引当金	4,492	7,038
リース債務	713	756
その他	48,096	46,489
流動負債合計	183,575	183,932
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	22,349	23,066
退職給付引当金	3,567	3,513
役員退職慰労引当金	403	456
リース債務	1,049	1,090
その他	※3 9,184	※3 9,484
固定負債合計	56,553	57,611
負債合計	240,129	241,544
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,646	33,646
資本剰余金	31,977	31,977
利益剰余金	84,290	79,557
株主資本合計	149,914	145,181
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,131	1,725
評価・換算差額等合計	1,131	1,725
少数株主持分	2,347	2,356
純資産合計	153,393	149,263
負債純資産合計	393,523	390,807

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
売上高	182,959	181,322
売上原価	131,608	127,052
売上総利益	51,350	54,269
販売費及び一般管理費	* 45,001	* 47,675
営業利益	6,349	6,594
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	251	279
持分法による投資利益	48	—
受取家賃	144	150
その他	161	227
営業外収益合計	613	663
営業外費用		
支払利息	301	272
持分法による投資損失	—	3
その他	180	270
営業外費用合計	481	547
経常利益	6,481	6,710
特別利益		
固定資産売却益	142	54
その他	44	45
特別利益合計	186	100
特別損失		
固定資産処分損	426	182
関係会社株式売却損	—	369
その他	146	278
特別損失合計	573	830
税金等調整前四半期純利益	6,094	5,981
法人税等	2,981	3,048
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,932
少数株主利益	34	1
四半期純利益	3,078	2,931

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,094	5,981
減価償却費	4,957	5,589
負ののれん償却額	△6	△4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	4,165	△2,514
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△457	△1,402
受取利息及び受取配当金	△259	△285
支払利息	301	272
固定資産売却損益 (△は益)	△142	△54
固定資産処分損益 (△は益)	335	179
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	371
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	44
売上債権の増減額 (△は増加)	△7,721	△5,121
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,868	3,990
たな卸資産の増減額 (△は増加)	228	818
未払費用の増減額 (△は減少)	△6,263	△1,165
その他	497	△119
小計	5,599	6,578
利息及び配当金の受取額	244	291
利息の支払額	△368	△160
法人税等の支払額	△1,889	△4,657
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,585	2,051
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,327	△3,912
無形固定資産の取得による支出	△495	△143
有形及び無形固定資産の売却による収入	47	139
投資有価証券の取得による支出	△101	△33
投資有価証券の売却による収入	0	64
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	2,242
その他	43	68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,833	△1,573
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	25,126	15,147
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	△8,000	△16,000
長期借入金の返済による支出	△1,322	△2,099
社債の償還による支出	△15,000	—
配当金の支払額	△1,313	—
少数株主への配当金の支払額	△9	△9
その他	△178	△138
財務活動によるキャッシュ・フロー	△698	△3,099
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	54	△2,621
現金及び現金同等物の期首残高	4,682	4,577
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	21
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 4,736	* 1,977

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、明治ライスデリカ株式会社及び株式会社フレッシュ・ロジスティックは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>大蔵製菓株式会社は、当第1四半期連結会計期間において当社が所有する株式をすべて売却したため、また、連結子会社である明治油脂株式会社が連結子会社であった大阪保証牛乳株式会社を吸収合併したことにより大阪保証牛乳株式会社が消滅したため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 23社</p>
2. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業利益及び経常利益は、それぞれ6百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は、167百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は512百万円であります。</p> <p>(2) 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)を適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
(四半期連結損益計算書)	<p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度決算において算定した貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。
2. 棚卸資産の評価方法	棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行っております。
3. 固定資産の減価償却費の算定方法	連結子会社の一部においては、固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算を策定しており、当該予算に基づく年間償却予定額を期間按分して算定する方法によっております。 また、提出会社及び連結子会社の一部においては、定率法を採用している資産について、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)																						
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は、269,995百万円 であります。</p> <p>2 保証債務 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対 し、債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">東乳物流サービス(株)</td> <td style="text-align: right;">50百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">仙台飼料(株)</td> <td style="text-align: right;">637 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">(株)明治ビバリッジ</td> <td style="text-align: right;">35 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">723百万円</td> </tr> </table> <p>※3 その他の固定負債に含まれる負ののれんは、16百万 円であります。</p>	東乳物流サービス(株)	50百万円	仙台飼料(株)	637 "	(株)明治ビバリッジ	35 "	計	723百万円	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は、268,298百万円 であります。</p> <p>2 保証債務 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対 し、債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">東乳物流サービス(株)</td> <td style="text-align: right;">50百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">仙台飼料(株)</td> <td style="text-align: right;">653 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">(株)明治ビバリッジ</td> <td style="text-align: right;">40 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">743百万円</td> </tr> </table> <p>※3 その他の固定負債に含まれる負ののれんは、21百万 円であります。</p> <p>4 コミットメントライン契約 提出会社は、機動的な資金調達及び資金効率の改善 を目的として、取引金融機関7行との間で、コミット メントライン契約を締結しております。 この契約に基づく当連結会計年度末における借入未 実行残高は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">35,000百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">15,000 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">20,000百万円</td> </tr> </table>	東乳物流サービス(株)	50百万円	仙台飼料(株)	653 "	(株)明治ビバリッジ	40 "	計	743百万円	コミットメントラインの総額	35,000百万円	借入実行残高	15,000 "	差引額	20,000百万円
東乳物流サービス(株)	50百万円																						
仙台飼料(株)	637 "																						
(株)明治ビバリッジ	35 "																						
計	723百万円																						
東乳物流サービス(株)	50百万円																						
仙台飼料(株)	653 "																						
(株)明治ビバリッジ	40 "																						
計	743百万円																						
コミットメントラインの総額	35,000百万円																						
借入実行残高	15,000 "																						
差引額	20,000百万円																						

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)																		
<p>※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">運賃保管料</td> <td style="text-align: right;">8,111百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">拡売費</td> <td style="text-align: right;">14,051 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">労務費</td> <td style="text-align: right;">9,712 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">949 "</td> </tr> </table>	運賃保管料	8,111百万円	拡売費	14,051 "	労務費	9,712 "	退職給付費用	949 "	<p>※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">運賃保管料</td> <td style="text-align: right;">8,082百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">拡売費</td> <td style="text-align: right;">15,216 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">労務費</td> <td style="text-align: right;">6,985 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">2,670 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">950 "</td> </tr> </table>	運賃保管料	8,082百万円	拡売費	15,216 "	労務費	6,985 "	賞与引当金繰入額	2,670 "	退職給付費用	950 "
運賃保管料	8,111百万円																		
拡売費	14,051 "																		
労務費	9,712 "																		
退職給付費用	949 "																		
運賃保管料	8,082百万円																		
拡売費	15,216 "																		
労務費	6,985 "																		
賞与引当金繰入額	2,670 "																		
退職給付費用	950 "																		

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)												
<p>※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">4,737百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△1 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,736百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	4,737百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	△1 "	現金及び現金同等物	4,736百万円	<p>※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">1,977百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">—</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,977百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	1,977百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	—	現金及び現金同等物	1,977百万円
現金及び預金勘定	4,737百万円												
預入期間が3か月を超える定期預金	△1 "												
現金及び現金同等物	4,736百万円												
現金及び預金勘定	1,977百万円												
預入期間が3か月を超える定期預金	—												
現金及び現金同等物	1,977百万円												

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 328,500千株
2. 自己株式の種類及び株式数
該当事項はありません。
3. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	食品事業 (百万円)	サービス・ その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	156,064	26,895	182,959	—	182,959
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	449	10,324	10,774	△10,774	—
計	156,514	37,219	193,734	△10,774	182,959
営業利益	5,414	908	6,322	26	6,349

(注) 1 事業区分の方法

事業区分の方法は、製品の種類及び販売市場等の類似性を考慮して区分しております。

2 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
食品事業	市乳、粉乳、練乳、バター、チーズ、アイスクリーム、飲料、畜産品、その他食品
サービス・ その他事業	飼料、運送、倉庫、医薬品、不動産、機械技術サービス、外食、保険代理店、リース

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは牛乳・乳製品等を原料とする食品の製造・販売を行う会社を核として構成されており、「食品」を報告セグメントとしております。

「食品」は、市乳、粉乳、練乳、バター、チーズ、アイスクリーム、飲料、栄養食品、畜産品等を製造・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書計上額 (注) 3
	食品				
売上高					
外部顧客への売上高	154,273	27,049	181,322	—	181,322
セグメント間の内部売上高又は振替高	431	10,024	10,456	△10,456	—
計	154,704	37,073	191,778	△10,456	181,322
セグメント利益	5,522	1,010	6,532	61	6,594

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料、運送、倉庫、医薬品、不動産、機械技術サービス、外食、保険代理店、リース等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去61百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 459.81円	1株当たり純資産額 447.20円

2. 1株当たり四半期純利益等

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純利益 9.37円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益 8.92円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
四半期純利益(百万円)	3,078	2,931
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	3,078	2,931
期中平均株式数(千株)	328,500	328,500

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8月11日

明治乳業株式会社
取締役会 御中

監査法人 不二会計事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 乗田 絃一 印

業務執行社員 公認会計士 川本 弘文 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている明治乳業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、明治乳業株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 8月13日

明治乳業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡邊 浩一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永澤 宏一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 友裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている明治乳業株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、明治乳業株式会社及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

